

会 議 録

1 会議名 第11期北九州市男女共同参画審議会 第4回

2 開催日時 令和5年7月5日(水) 10:00~12:00

3 開催場所 オンライン
市役所15階 15C会議室

4 出席した者の氏名

(1) 審議会委員

来所 大島まな(会長)、沼田文子

オンライン 伊藤幸祐、小石佐織、里村勉、高橋建二、土谷和子、古市嘉寛、
森山はるか、安河内恵子、湯浅壘道(副会長)、横山隆宏、
渡邊典子 以上13名

(2) 事務局

総務局長 田中規雄

女性の輝く社会推進室 竹光郁 他3名

5 会議の内容

第5次北九州市男女共同参画基本計画の策定について

(1) 計画の組立て(柱・施策の方向)【説明及び意見】

(2) 計画策定スケジュールの見直しについて【報告】

6 審議会委員からの意見

(1) 計画の組立て(柱・施策の方向)

「【資料1】北九州市男女共同参画基本計画の柱・施策の方向の見直し案について」の事務局説明に対する意見

- ・『柱V-3生涯を通じた女性のヘルスケア支援の取組』について、女性特有の子宮頸がん等の早期発見治療のための受診促進とされているが、子宮頸額ワクチン接種については、20歳代は積極的には接種しておらず、若者に浸透していない。今後、子宮頸額ワクチン接種を推奨していくのか、ワクチンの推進はせずに検診のみを進めていくつもりなのか教えていただきたい。

（ワクチン接種については、保健福祉局の所管となるため、詳細は承知していないが、第5次男女共同参画基本計画策定に向け、今後関係局に照会し、必要な事業や取組を盛り込むこととしている。）

- ・『柱V-3生涯を通じた女性のヘルスケア支援の取組』で「若年層における性理解

促進」があるが、思春期の性に関する問題、エイズ等の疾病、性教育が含まれ、女性に限定されるものではない。

「女性のヘルスケア支援」とするより、女性に限らず広い取組が含まれることや、特に若年層に関しての取組を反映させるような表現にしていきたい。

- ・『柱Ⅴ-3 生涯を通じた女性のヘルスケア支援の取組』に関しては、男性もヘルスケア支援も必要であるが、優先順位が低かった女性のヘルスケアやリプロダクティブヘルス&ライツ、性教育をしっかりと実施して女性が子どもを持つことの意味決定の権利の重要性等について、本文の中で背景や課題がわかるようにした方が良い。
- ・柱Ⅰは「ジェンダー平等」と書くことですっきりし、全体の整理ができて印象を持った。
- ・『柱Ⅲ-1 女性の就業起業支援』について、現在、コロナ禍を脱し徐々に景気回復しつつあるが、市内の企業では人手不足感が強い。企業にとって、人材をいかに確保するかが課題となっており、男性女性に関わらず、多くの人を獲得するために職場の環境を変え、賃金を始め、働きやすい環境作りが進むと思っている。一方、創業や起業については、ウーマンワークカフェ北九州で企業支援セミナーを開催しているが、商工会議所でも「創業塾」というセミナーを開催しており、女性や30代40代といった若い世代の参加が増えている。事業を長く継続することが重要なので、創業をゴールととらえるのではなく、創業後も伴走支援していきたい。
- ・『柱Ⅴ-1 DVの防止及び被害者の支援』について、DV以前に、SNSで性的関係を求められたり、裸の写真を送らせる等の危険な状況があり、低年齢化が進んでいる。危険な状況に陥らないために、低年齢の子供たちに対して、SNSの危険性をしっかりと伝えていく必要がある。
- ・『柱Ⅴ-4 困難を抱えた女性等が安心して暮らせる支援』の取組内容に「多様な性のあり方への理解促進」が入っているが、『柱Ⅰ ジェンダー平等が浸透した社会の実現』の施策の方向の4番目として、ジェンダーレスへの対応、多様性について入れるべきと考える。
- ・『柱Ⅰ-3 子供の頃からのジェンダー平等の理解の促進』について、女子中高生が理系の進路を選択した場合、進路指導の先生にアンコンシャス・バイアス(無意識な偏見)があることから、進路指導における改善等の取組を入れていきたい。

- ・ムーブで実施されている「大学生のためのキャリア形成プログラム」では、市内の大学、高校での出前講義が実施されている。ジェンダー平等の視点による学校教育の推進はライフキャリアを形成する上で、大事な視点であることを示した方がよい。
 - ・キャリア形成プログラムでは、これまで担当する先生が文系ばかりであったが、今年度から理系の先生に参加していただき、理系を意識した内容に変更している。
 - ・SNSによる犯罪については、予防と対処を分ける必要があり、教育や啓発にどのようにつなげていくか整理をしていただきたい。
 - ・日本のジェンダーギャップ指数が世界の中で下がってきている原因の一つは、経済分野と政治分野への女性参画が進まないことにある。今回、『柱Ⅱ-4 政治分野への女性の参画拡大』を施策の方向の一つに出していただいた。取組は難しい部分もあるが考えていかなければならない。
 - ・性犯罪やDVは、予防という観点から、教育分野や行政において低年齢化を防止する対策を実施することが、被害者、加害者を生まないための重要な取組である。SNS利用の低年齢化による悪影響を配慮していただくような内容を次期計画に盛り込んでいただけるとありがたい。
 - ・柱Ⅱの施策の方向を「地域」と「企業」とで分けているが、現在の計画と同様、意識改革とリーダー育成を進めていくのか。
- 柱、施策の方向性を定めて、関係局へ具体的な取組を照会するとともに、現在企画調整局において策定中の「新まちづくりビジョン」の議論も踏まえ、具体的施策を検討したいと考えている。
- ・『柱Ⅲ女性が自分らしく活躍できる経済社会の実現』の「自分らしく」という表現が漠然とした表現だと感じた。
 - ・多様な生き方、それぞれが望む生き方を支援するというニュアンスと理解している。
 - ・『柱Ⅲ女性が自分らしく活躍できる経済社会の実現』の「自分らしく」の表現は、輝くとか、努力して頑張っているニュアンスを感じ、違和感がある。「無理なく」や「自分なりに」等、自分の置かれた状況に応じて自分の力が発揮され満足できるといった表現が良いのではないかと。

- ・『柱Ⅱ-2 地域における方針決定過程への女性の参画拡大』について、地域で活動している方は、自治会等における女性参画率、女性の参画拡大のための広報啓発、女性リーダー育成のための支援について課題と感じている。例えば、子育てや介護のために地域活動ができない方などが多く、そういった方を応援したりすることが地域活動をする中でできないかと感じている。
- ・リーダー養成や啓発についても、条件整備が出来ていなければ女性がリーダーになるのは難しい状況であり、何らかの取組につなげてもらいたい。また、自治総連合会の会長の約 9 割が男性で、かつ後継者不足の問題があるが、民生委員や P T A 等で既に活躍している女性に会長や副会長になってもらえば後継者不足も解消するとの意見が自治会長の研修会で出ていたので紹介しておく。
- ・男女の出会いの紹介をする際、相手に求める条件として「暴力を振るわない人」と言う人が多い。目の前で見ることがないのでわかりにくいですが、実際は D V が多いのではないかと感じた。
- ・エンジニアの採用では、男女関係なく採用しており、女性の方も多く採用され優秀である。
- ・キャリア教育や進路指導の際、就職の状況が具体的に見えると、親も教師も応援しやすくなる。理系分野への女性進出に繋がる施策をお願いしたい。
- ・『柱Ⅳ-1 男女が共に仕事と生活を両立できる社会の実現』のワークライフバランス、働き方改革について、女性が活躍するためには、「在宅ワーク」や「テレワーク」の推進を言葉として、盛り込んでいただきたい。
- ・『柱Ⅰ-2 男性にとってのジェンダー平等の理解の促進』について、性別による役割分担意識では、男性に経済的な役割が求められていることを男性自身も感じており、女性も男性に対し期待を持っている。それが、非正規雇用の男性の未婚率の高さに繋がっている。男性の家事育児参加も当然必要だが、これからの社会では、経済的役割について、女性も男性も協同して担っていくものだというのを計画に盛り込んでどうか。
- ・『柱Ⅳ-2 多様なライフスタイルに対応した子育てや介護等の支援の充実』では、保育所の待機児童は減少し改善されつつあるが、子どもが小学校に上がっても働き続けるためには、学童保育の整備に向けての対策が急務と思われる。必要があるのであれば、計画に言葉として入れた方が良いのではないか。
- ・D V については、身体的暴力だけでなく、経済的に優位にある配偶者から生活費

がもらえない、SNSでの交流を禁止し交流関係、交友関係を制限させる等、様々な意味で自由が拘束されることによって、安心して生活できない方もおりこれらもDVに含まれる。このようなことを啓発し市民の理解につながるよう施策に盛り込んでいただきたい。